

ベンチャースタジオ

P.02 【特集】

羽ばたけ、 ウチナー技能者たち

～若手の技を磨く沖縄企業の挑戦～

P.12 表紙の人 INTERVIEW

比嘉 バービーさん

タレント・モデル

沖縄の認知度は世界的にも高いと思う。
ビジネスチャンスを見逃さずに
どんどん挑戦してほしいですね。



CONTENTS

P.05 考える力、貫く意志、行動力。経営者の折れない心 株式会社寄宮 渡久地政信さん

P.06 目指せ、うまんちゅ総活躍! 沖縄の働き方改革、最新事情 大和コンクリート工業株式会社

P.07 海外レポート from タイ

P.08 目からウロコの地域資源活用術 「まさひろオキナワジン」まさひろ酒造株式会社
「MIZUHO 170th～ORI-GIN～」瑞穂酒造株式会社／「花ブロック」合資会社山内コンクリートブロック

P.09 ちょっとひと息コラム うちなープロスポーツ 「卓球」琉球アスティーダ

P.10 ネットワーク会員広場 元気企業ファイル 株式会社 丸忠

P.10 ていきたん照屋の商品開発よもやま話 地域食品認証・認定の潮流

P.11 しっとくなっとく企業支援 沖縄特区・地域税制活用ワンストップ相談窓口

P.12 OVS NEWS 沖縄大交易会2018視察者募集 正社員雇用拡大助成金事業開始



〒901-0152 沖縄県那覇市小緑1831-1
TEL 098-859-6237 <http://www.okinawa-ric.jp/>
発行：(公財)沖縄県産業振興公社

<http://ovs.jp>



QRコードから、
公社のウェブ
サイトにアクセ
スできます。

【特集】



おきなわ
技能五輪
アビリンピック
2018

羽ばたけ、ウチナー技能者たち

若手の技を磨く沖縄企業の挑戦

11月2日～5日に開催される「おきなわ技能五輪・アビリンピック2018」。23歳以下の技能者による「技能五輪」の全国大会と、15歳以上の障害のある人が技能を競い合う「アビリンピック」の全国大会が同時開催され、沖縄での開催は初となる。そこで今回は6名の県代表選手たちと、彼らを支える人々・組織に話を伺い、技能の向上がビジネスにもたらす好影響についてレポートする。

「技能五輪」「アビリンピック」の意義と熱量を確かめに、ぜひ会場へ

技能五輪全国大会は、青年技能者が日本一を競うことで技能レベルの向上を図ることなどを目指して毎年開催され、国際大会（隔年開催）の選考会も兼ねている。全国アビリンピックは、障害のある人が技能を

配管

金メダルを獲得し

世界大会にチャレンジしたい

三栄工業株式会社 屋宜宣好さん（19歳）

技能五輪

屋宜さんは2017年の技能五輪全国大会で銅メダルを受賞した実力の持ち主。さらなる高みを目指す入社2年目の彼を職場でサポートするのは、上司の照屋保さんだ。

●過去大会への出場経験と

今大会に向けた取り組みについて

屋宜…初出場は2年前、南部工業高校3年生の時です。出場前には技能五輪メダリストが指導する出前講座に参加して、みっちり技を学んだおかげで、敢闘賞を受賞しました。今大会に向けた練習には8月初旬から取り

競い合うことで職業能力の向上を図ると同時に、企業や社会一般からの理解と認識を深め、雇用の促進を図ることを目的に毎年開催されている。今大会では沖縄から過去

最多の140名が全国の精鋭と技を競い合う。会場では県代表選手がメダルを目指し奮闘する姿を間近で見学できる。ぜひ観覧・応援に訪れてほしい（詳細はコラム参照）。

組んでいます。毎日会社の朝礼に出席した後、高校の実習室に行き夕方6時頃まで練習します。金メダルの獲得を目指して、苦手を作業を繰り返して行っています。

●会社のサポート体制と

出場することのメリットについて

照屋…当社の主な業務は大型商業施設やホテルなどの空調設備や給排水衛生設備、水道設備工事の施工管理です。建物の隅々に水を運ぶ配管は、施工に問題があれば水漏れなどのトラブルを引き起こすため、常に高い技術が求められる仕事です。

屋宜が担当している業務は現場技術者、つまり職人さんの管理が中心です。技能五輪への出場で技術者としての技能を磨くことで、職人さんの仕事をより理解できるようになっ



前回大会会場で課題に臨む屋宜さん。多くのギャラリーや審査員の視線にさらされる環境でもまったく緊張しないそう

てきたようです。職人さんが仕事をしやすい環境を考えられるようになったのは、大きなメリットだと感じています。

この業界も高齢化が進んでいるので、技能五輪で屋宜が活躍することで配管の仕事の面白さに興味を持つ若い人が増え、進路に影響を与えてもらえればと思います。

●今大会への抱負や意気込みについて

屋宜…配管部門の競技では寸法通りに仕上げることや見栄えの良さ、時間を守ることなどが求められます。さらに今回は、国際技能競技大会に準じているため課題図面の一部が白紙になっていて、当日支給される材料を全部使ってその場で即断して仕上げる必要があります。それには普段の練習で多くの課題をこなす必要がありますが、練習量にかけては誰にも負けたいと自負しています。金メダル、本気で狙っていますから。



照屋保さん(左)と屋宜宣好さん。社内には銅メダルを獲得した際の課題の配管が展示されている

三栄工業株式会社

那覇市港町3-2-8

☎098-868-0191

<http://san-ei-kogyo.com>



日本料理

地元で金メダルを獲得し
周りの人に恩返ししたい

ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城

富山咲良さん（23歳）

技能五輪

日本料理部門に出場する富山さんは、沖縄県勢の同部門過去最多となる4度目の出場。料理長の山川宗広さんが日々指導にあたり、自身初のメダル獲得を目指す。

●過去大会への出場経験と 今大会に向けた取り組みについて

富山…琉球調理師専修学校に在学中の2015年に初めて出場しました。県内では日本料理にチャレンジする人がいなかった中で、私が沖縄から初めて、学生としても初めてこの部門への挑戦となりました。次の年はリゾートホテルに勤務しながらの出場。そして3度目の前回大会は現在の職場から出場し、敢闘賞を受賞しました。

受賞はしたものの実力を発揮できなかったことが悔しくて、大会の翌月からすぐに次に向けた練習を始めました。現在は毎日午後2時半から5時半まで、職場の厨房の仕込みがない時間に特訓を行っています。

●会社のサポート体制と 出場することのメリットについて

山川…県内に4つあるヒルトンホテルのうち、日本料理店があるのは当ホテルだけです。日本料理は四季を重んじた繊細な盛り付けや、食材を生かした味付けが特徴で、当店は地元の女性客の利用が多いですが、近年は欧米からの旅行者も増えています。

富山は2017年の入社時、すでに十分な実力を備えていました。ただ日本料理はわずかな違いで見栄えが左右される繊細さがあるので、毎日細かく指導し、日々の業務を通して腕を磨いてもらっています。

当店の厨房は富山が紅一点で、他は28歳から50代までの男性ばかり6名。皆で彼女を応援し、協力しています。9月からは敢闘賞受賞の実力をアピールするため、富山

が考案した「咲良（さくら）弁当」をランチタイムに提供していますが、女性料理人がつくったヘルシーなメニューとして喜ばれています。彼女の活躍は店にとってもいい刺激になっていて、料理人たち全体の質の向上にもつながっていると思います。

●今大会への抱負や意気込みについて

富山…地元開催の今回こそは、と金メダルを目指しています。お世話になった方々や温かく見守ってくださる先輩方への恩返しのためにも頑張ります。今回は専門学校生を含めた7名が沖縄から出場予定で、競技会場となる専門学校では県外から指導者を招いた本番さながらの模擬大会も行われます。自分の技を磨きながら、先輩として若い人たちにも情報を伝えていきたいですね。県内でも日本料理を目指す人が増え、仲間ができると嬉しいです。



日本料理「富士」で2018年9月から提供している「咲良（さくら）弁当」。美しきヘルシーなメニューは特に女性客に好評だ



富山咲良さん(右)は琉球宮廷料理に興味があり、将来的には当時の琉球の味を再現する夢を抱いているという。厳しく温かく指導してくれる料理長の山川宗広さんと

前回大会会場での富山さん。「審査員や観客の視線が集まるとワクワクする」そうなので、今大会もぜひ会場で大きな声援を送ろう



ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城

那覇市首里山川町1-132-1

☎098-886-5454

<https://www.doubletreeshuri.jp>



造園

技能五輪

ふたりで力を合わせて
メダル獲得を目指します

金秀建設株式会社 當間元士さん(19歳)
有限会社緑新開発 玉那覇兼吾さん(22歳)

當間さんと玉那覇さんは前回大会の際に出会い、今大会は造園の課題にペアを組んで取り組むことになった。取材に訪れた日、猛暑の中で練習に打ち込むふたりを見守っていたのは當間さんの上司、上原健さんだ。

●過去大会への出場経験と
今大会に向けた取り組みについて

當間…私は南部農林高校出身です。高校時代に造園の面白さに気づき、金秀グループの造園会社を経て現在は金秀建設で仕事をしています。入社1年目から技能五輪に出場し、2度目の出場となった今回は敢闘賞を受賞でき、ホッとしました。

玉那覇…私は中部農林高校を卒業し、父が経営する緑新開発に入社して造園や街路樹の植栽などに携わっています。技能五輪には前回大会に初めて出場しました。

當間…8月中旬から本格的な練習を開始しました。所属会社の諸先輩のほか、出身高校の先生方や県内外の造園会社のベテラン技術者の方々にご指導いただいています。

玉那覇…現在は毎日朝9時から夕方6時まで、練習場所の特訓しています。今回の課題は6メートル×4メートルの作庭で、制限時間内に平面図と断面図通りにいかに正確に、美しく仕上げられるかを競います。

當間…石積みや石貼り、竹垣の作成、草木の植栽など、幅広い分野で高い技術が求められる上、工具の取り扱い方や安全性への配慮、作業現場の清潔さといった作業態度も採点されるので、その点にも留意しながらふたりに練習に励んでいます。

●会社のサポート体制と
出場することのメリットについて

上原…当社は総合建設会社としてさまざまな

な公共工事や民間工事に携わっており、當間が所属する部門では公園や街路植栽工事、リゾート関連施設等の植栽管理なども担当しています。全国の優れた技能者と技を競い合う技能五輪への参加は、技術の向上はもちろん本人のモチベーションアップにもつながると考え、全社を挙げて応援しています。

造園業界も技術者の高齢化が進み人手不足に悩んでいます。若いが活躍してくれることで、業界全体の質の向上や活性化につながることを期待しています。

●今大会への抱負や意気込みについて

當間…技能五輪ではシビアな制限時間の中で、作業の正確性を求められます。前は審査員の視線などを意識して集中できず、普段通りの力が出せなくて悔しい思いをしました。でも過去大会への出場で効率的に仕事をこなす基本的な動き方が身についたし、自分で考える力や工夫する習慣も身についたと実感している。で、3回目となる今回はメダル獲得を目指して課題

左から上原健さん、當間元士さん、玉那覇兼吾さん。6メートル×4メートルの囲いを組んだ練習場所で、日々汗を流して訓練に励んでいる



金秀建設株式会社

西原町字小波津567
☎098-946-4633
<http://kanehidekensetu.com>



有限会社緑新開発

沖縄市池原2-10-35
☎098-939-4310
<http://ryokusinkaiatsu.com>



INFORMATION

「おきなわ技能五輪・アビリンピック2018」開催概要

●開催日程・会場

11月2日(金)	合同開会式	奥武山公園
11月3日(土)	競技	那覇市民体育館、奥武山公園、沖縄コンベンションセンター、宜野湾海浜公園、浦添運動公園、沖縄県総合運動公園、沖縄市立総合運動場、豊見城市民体育館、うるま地区内賃貸工場、他
11月4日(日)	競技	
11月5日(月)	合同閉会式	奥武山公園

競技は6市14カ所(予定)で実施され、入場無料で自由に観覧可能。※スケジュールなど詳細はウェブサイトを確認を

●第56回技能五輪全国大会：競技／42職種

機械系	9職種
金属系	5職種
電子技術系	5職種
建設・建築系	10職種
サービス・ファッション系	10職種
情報通信系	3職種

●第38回全国アビリンピック：競技／22種目

建築・工芸系	5種目
電子・機械系	3種目
情報技術系	7種目
サービス・ファッション系	7種目



9月11日に県民ホールで開催された沖縄県選手団の結団式。技能五輪は31職種に111名が、アビリンピックは19種目に29名が出場する

おきなわ技能五輪・アビリンピック2018推進協議会事務局
(沖縄県労働政策課 技能五輪・アビリンピック準備室)
<https://www.okinawa2018.jp>



石積みの際にはその場で石を割り、大きさを調整することもある。今回は開催地である沖縄県産の琉球石灰岩(1トン)を用いた野面積みも課題のひとつとなっている

にに取り組んでいます。玉那覇…技能五輪の課題には、沖縄ではあまり使われない石積みや石貼りなどがあります。県外の技術者から直接学ばせてもらい、身についてきた実感があるので、自信を持って臨み、よい成績を収めたいです。

紙面で紹介した3部門の部門別競技内容

【配管】配管は上・下水道、給・排水、衛生、空調、冷暖房など、安全で快適な生活を営むために大切なライフラインを施工する技能。競技では、実務に即し、壁取り付け組み立てを行う

【日本料理】季節の食材の持ち味を生かし、巧みな包丁さばきで調理する日本料理。多くの器を使い分け、盛り付けも空間をもって美とするなど繊細さが求められる。競技の課題では基礎的な調理技能を重視し審査される

【造園】生活空間に小さな大自然を作り出す造園の技能。競技は2日間で一定の区画に石積み、石貼り、樹木や季節の草花の植栽、芝生貼り等を行う



【特集】羽ばたけ、ウチナー技能者たち

表計算

「金以外なら引退」の覚悟で
年々難しくなる課題に取り組み

アビリンピック

全保連株式会社 宮里政也さん(38歳)

表計算に出場する宮里さんは、2017年の努力賞受賞をステップに、今大会では金メダルを目指す。日々の業務のかたわら、周囲が驚くほどの猛勉強に励む宮里さんを支えるのは、上司の御幡一浩さんだ。

●過去大会への出場経験と

今大会に向けた取り組みについて

宮里…アビリンピックへの初めての出場は2016年、上司のすすめがきっかけでした。沖縄大会で金賞を受賞し、山形で開催された全国大会に進んだのですが入賞できず、本当に悔しい思いをしました。

2017年は助成金を受けてパソコン教室に通ったり、参考書の問題を100回繰り返し解いたり、自分なりに猛勉強して臨みました。しかし結果は、銅メダルに次ぐ努力賞。これだけやってもか…と一瞬下を向きかけましたが、ならばさらに上を目指すぞ!と翌日から勉強を始めて、現在に至ります。ちなみに、この一連の勉強の成果で、8つもの関連資格も取得しました。

●会社のサポート体制と
出場することのメリットについて

御幡…賃貸住宅の家賃保証サービスを行う当社では、障がいのある人の雇用に長年取り組んでいます。宮里が在籍する印刷室は、社員8名のうち5名が障がいを持つ人です。ここでは月に最大5万部の印刷物の受注から発送までを行っており、業務管理のために表計算ソフトを活用しています。

宮里が努力賞を受賞した際は、職場全体で喜びを分かち合いました。宮里の勉強ぶりには他のメンバーも刺激を受けていると思います。「自分にもできるだろうか」という葛藤



宮里政也さん(左)と御幡一浩さん

全保連株式会社

那覇市久茂地2-22-10
那覇第一生命ビルディング5階
☎098-911-9078
<https://www.zenhoren.jp/>



ITパスポート

Microsoft Office Excel specialist 2013 (一般)

Microsoft Office Excel エキスパートPart1 (上級)

Microsoft Office Excel エキスパートPart2 (上級)

サーティファイ Excel表計算技能認定試験 1級

サーティファイ Excel表計算技能認定試験 2級

日本商工会議所 日商PC(データ活用) 2級

中央職業能力開発協会

コンピューターサービス技能評価試験 (CS試験) 表計算 2級

アビリンピックに向けた猛勉強の「副産物」として宮里さんが取得した資格はなんと8つ! 現在も今大会の課題に含まれる統計を学ぶため、「IMOS統計スペシャリスト」の勉強に取り組もうかと思案中とのこと

が「チャレンジしてみたい」という意欲に結びつけば、会社としてもその挑戦を後押ししたいと考えています。

●今大会への抱負や意気込みについて

宮里…今大会から課題が大幅に難しくなる予定です。統計の要素が加わり、問題を読み解く日本語読解力も求められるので、現在はそこを中心に勉強を重ねています。私の姿を見て、身体・精神・知的障がいを持つ人が「自分も負けない」と挑戦心を持つてくれたら嬉しいです。自社だけでなく他社の方にも良い影響を与えていきたいですね。



ホームページ

メダリストの直接指導を受け
“キレイな”コードで上位入賞へ

アビリンピック

障がい者ITサポートおきなわ 奥浜彩加さん(35歳)

今大会が初出場となる奥浜さん。指導するのは前回大会の銅メダリスト、山川朝教さんだ。現在は独立し個人事業主として活躍する山川さんから奥浜さんへ、競技で戦う上での戦術と心構えが受け継がれている。

●過去大会への出場経験と

今大会に向けた取り組みについて

奥浜…2018年8月、初めて出場したアビリンピックの沖縄大会で思いがけず金賞を受賞し、今大会の出場権を得ました。職場の元先輩で、現在は独立された山川さんの指導を受けたことが金賞受賞の大きな後押しになったと感じています。



今大会に向けては山川さんと県外のメダリストの方の言葉をヒントに、「課題

2018年8月に開催された地方アビリンピック(沖縄大会)には同所から7名が出場。奥浜さんを含む2名が金賞、1名が銀賞を受賞するという優秀な成績を収めた

以上のことをやる」をテーマに練習しています。課題はどの選手もほぼ同じレベルでクリアしてくるので、プラスアルファの部分が重要になります。たとえば加点にならないとしても、持っている知識や技術をなるべくたくさん組み込めるようにしたいです。

●会社のサポート体制と
出場することのメリットについて

山川…障がい者ITサポートおきなわでは

INFORMATION

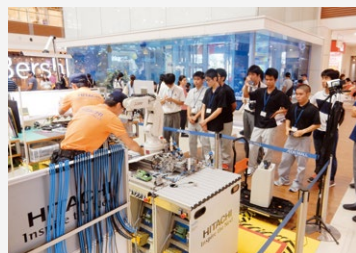
技能五輪・アビリンピックへの
沖縄県の取り組みと支援策

沖縄県では今を遡ること4年前の2014年7月に、2018年開催の技能五輪・アビリンピック全国大会開催地として名乗りを上げた。沖縄開催の決定後は大会準備委員会を設置し、2016年には推進協議会を設立。その後は年々、事務局の人員体制を拡充しながらさまざまな支援策を実施し、沖縄開催の成功に向けた準備にあたってきた。

その中でも特に大きな成果を挙げている支援策が「選手の育成強化」だ。一企業(団体)あたり20万円の「助成金」給付をはじめ、過去大会メダリスト等の指導者を招へいして選手及び指導者を育成する「出前講座」、集客施設(イオンモール沖縄ライカム・サンエー那覇メインプレイス等)で行う「合同公開練習会」を実施。これにより、2015年以前は一ケタ台だった沖縄からの全国大会出場者数は大幅に増加(グラフ参照)。今大会は140名の大選手団となった。



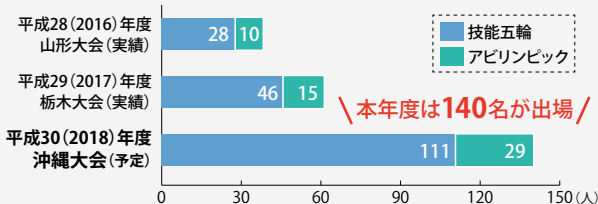
メダリストによる出前講座



公開練習会でのひとコマ

「技能職の持つ大きな可能性、そして働くことの意味や喜びを発見できる大切な機会として、今大会を活用してほしい」と話すのは、県技能五輪・アビリンピック準備室で広報を務める新垣泰子さん。「特に沖縄の次代を担う若い人に観てほしいので、ぜひご家族連れでお気軽に観戦にお越しいただきたいです。観るだけでは理解しづらい競技の流れやポイントを高校生等が説明する競技解説ガイドも予定しています。今大会は全会場で延べ約15万人の来場を見込んでおり、各会場では競技だけでなく沖縄の魅力を体感できる催事や観光物産展等も実施します。ぜひお近くの会場に足を運び、選手たちへの声援をよろしく願います」

沖縄からの全国大会出場者数



データ入力・集計や横断幕・垂れ幕などの大判印刷、名刺作成などのサービスを行っています。私は2017年11月までの2年3カ月間、ここに籍を置き、アビリンピック全国大会には2回出場しました。職場の皆の協力や応援も受け、2016年は努力賞、2017年は銅メダルを獲得しました。現在はフリーランスとして活動しながら、後輩の指導にあっています。

大会に出るという目標を持つことは、技術の向上や知識の習得に非常に効果的です。そこに実務での経験が加われば、さらに強い。お客様への提案力につながるし、競技でも奥浜さんの言う「プラスアルファ」につながっていくと思います。

●今大会への抱負や意気込みについて

奥浜…やれることを全部やり、まずは山川さ

んに追いつきたいですね。そしてすべての基本としてコードはキレイに、見やすく書くことを心がけたい。それが結果としていい成績につながればいいと思います。



奥浜彩加さん(右)と山川朝教さん

障がい者ITサポートおきなわ

浦添市内間5-4-3(101)
☎098-961-6715
<http://ict.okinawa>





困難に直面した時、どのようにモチベーションを保ち続けるか。逆境を乗り越えるため、どのように考えを巡らせ、行動するか。メンタルの弱さが注目される時代、多くの困難を乗り越えながら事業に取り組む経営者の言葉から、「折れない心」を支える根底にあるものを探ります。

考える力、貫く意志、行動力。

経営者の折れない心

人に迷惑をかけず、お客さんのためになることだけを考えてきました

株式会社寄宮 代表取締役会長 渡久地 政信さん

創業時にお金を貸してくれた人に迷惑をかけないよう必死で働いた

業務用の冷凍食品の卸販売を中心に手がける株式会社寄宮は2018年、節目となる創業50周年を迎えた。創業から長年にわたり会社を運営し続け、現在は会長となった渡久地政信さんに、本土復帰前後の厳しい時代を生き抜いてきた企業人としての歩みと、抱えてきた想いについて伺った。

「この仕事を始めたのは26歳の時です。義理の兄から『一緒に台湾エビの輸入販売業をやらないか』と声をかけてもらったのがきっかけでした」

義兄とそれぞれ1000ドルずつ出し合っで事業を始めることになったが、渡久地さんはその創業資金を友人や親戚など、3カ所からの借金でまかなった。

「快くお金を貸してくれた人に、迷惑をかけてはいけません。ただその一念で毎日、一生懸命働きました」と渡久地さん。創業当初は飲食店や鮮魚店などに、手当たり次第に営業して回ることからスタートした。飛び込み営業なので断られることがほとんどだったが、そんなことはものともせず、足繁く何度も通ったそう。

「例えば飲食店に営業に行くと、その洗い場に食器が溜まっていたら、食器洗いを手伝ったりしました。そうやって徐々に認めってもらい、注文をいただけるようになっていきました。その後も、エビをすぐに使えるように洗ってから納入したり、ほどよく解凍したりするなど、常にお客さんのためになることを考えて実行していました」。

また、当時は仕入れから営業・販売・配達・集金まで、ひとりで何役もこなすのが当たり前でした。その頃、同業の大手が何社もありましたが、他社が昼間に営業に行くところを私は夜から営業に出向き、朝方まで話をすることもありました。一生懸命やればやるほど売上が上がったので、苦労したとは全然思っていないですね」

業容拡大に必要なだった多額の資金も銀行の賛同を得て無事融資を受ける

顧客の要望に応じて輸入する食材を次々と増やし、エビに加えて鶏肉などの肉類も扱うようになっていった。そして創業から10年目の1977年、同社は大きなチャレンジをするようになった。

「新たにオーストラリアからエビの輸入を始めようと決意し、地元の銀行に融資の相談に行ったんです。話を重ねるうち、結果的には驚くほど多額の融資を受けられることになり、無事に新たなルートでエビの輸入をスタートすることができました」

これで販売利益が一気に上がり、ドルの変動相場制による利益も出たという。「この融資実行に力を貸してくれた銀行員の方はその後も、現在本社のある那覇市港町の土地購入を勧めてくれ、冷凍倉庫などの設備が整った社屋の建築費用も融資してくれました。あんなによくしていただいて、私は本当に人に恵まれていると思います」

何かに挑戦しようとする、必ず周りの誰かが話をつないでくれたり、人を紹介してくれた。いつも助けてくれる人がたくさんいた、と渡久地さんは笑顔で振り返る。

苦労を苦労と思わないただ一生懸命やってきただけ

かつての苦労話を聞こうとしても、渡久地さんは「目の前の仕事を一生懸命にやってきただけ」と笑顔を絶やさない。「借金をして始めた事業なので失敗しないこと、会社を潰さないことだけを考えていました。お客さんを大切に、他社ができないことを考えて実行する。やると決めたことはやる、それだけです。仕事も一生懸命やりましたが、遊ぶのも同じくらい一生懸命で



右手に見える扉は、外で待っている冷凍トラックの荷台に直結している。商材を入念にチェックした後、配送用のトラックに積み込まれ顧客の元に届けられる

現在20台の冷凍車が沖縄中を走っている。かつては他社に先駆けて冷凍車を導入したり、注文に即座に応じられるよう大きなアンテナ付きの無線機をトラックに搭載して顧客拡大に努めたそう



県内では同社しか扱っていないというインドネシア産のエビ。エビだけでもムキエビや真っ直ぐに伸ばしたエビなど商品数は多く、例えばイセエビだけでも100種類以上はあるそう



亡き父の強さを超えたいとがむしやうに働き続けた50年

「心が折れることなど知らないかのように、50年の歩みを笑顔で語る渡久地さん。苦しい場面がなかったわけではないはずなのに、この強さはどこから来るのだろう」。

（笑）。仕事や遊びを通じて知り合った人に助けてもらいながら、ここまで来られました」現在では冷凍のエビや魚介類、肉類をはじめ、県産鮮魚や、社内で製造する自社ブランドのお惣菜などの加工食品まで、取り扱いアイテム数は2000種を超える。これも「ただお客さんの声に応えてきた結果」と、渡久地さんは実にあっさり。「忙しい主婦の方々の役に立ちたい」という従業員の声から、加工食品も手がけることにしたんです。お客さんを大切に思うのと同じように従業員も大切に、一人ひとりが活躍できる場をつくってききました。加工場の工場長には、長年パートとして活躍してくれた女性従業員を起用したんですが、お客さんにとっても評判がいいんですよ」



渡久地政信（せいしん）さん。那覇市の生地販売の店で働いた後、1967年からエビの輸入販売業を始める。仕事は「みーなり、ちぢなり（自分で見聞きして）」覚えたといい。法人化したのは1995年。同社の経営理念である「他人に迷惑をかけない。しっかりと地に根を張った会社を造り、未来において社員が枝葉を伸ばしていける環境づくりを行う」は、これからも変わることなく守られる

株式会社寄宮
那覇市港町2-7-16
☎098-863-8666
http://ebi-yosemiya.jp



清潔な倉庫で行われる仕分け作業。たった2名でスタートした同社には、現在37人の社員と15人のパート従業員が働いている



目指せ、うまんちゅ総活躍！

沖縄の働き方改革 最新事情

国が掲げる「働き方改革」とは、多様かつ公平公正な雇用・働き方を実現し、個々の生産性を向上させることで経済全体を発展させようというものだ。一方、企業・事業者の現場では、健全な経営に不可欠な要素として、働きやすく、やりがいを実感できる環境・組織づくりの重要性が改めて叫ばれつつある。本連載では、沖縄でそれぞれの「働き方改革」のため、先進的かつ地道な取り組みを続ける企業・事業者を紹介していく。



「二日6時間労働制」も夢ではない。
全従業員の健康を守りながら、効率よく
より働きがいのある職場を目指します。

大和コンクリート工業株式会社

取締役専務 小橋川 健さん

今回紹介する大和コンクリート工業株式会社は2017年7月、「一日7時間労働制」を正式に導入して県内外から注目を浴びた。さらに2018年3月には中小企業庁の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」の「生産性向上部門」に選定されている(※)。



従業員満足度の向上を目指したさまざまな活動が認められ、2018年3月に中小企業庁の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」の「生産性向上部門」に選定された

これらの成果は、決して一朝一夕で実ったものではない。働きやすい環境と効率よく働ける仕組みをつくり出すため、長年にわたって尽力してきた同社の取り組みやその背景について、取締役専務の小橋川健さんに話を伺った。

※「はばたく中小企業・小規模事業者300社」

多様な分野で活躍している中小企業・小規模事業者を、中小企業庁が「はばたく中小企業・小規模事業者300社」として選定。2018年3月には「生産性向上」「需要獲得」「担い手確保」の各分野で優れた取り組みを行う事業者が選定され、沖縄県からは4社が選定された。



1980年代から取り組んできた

職場環境改善の努力が20年越しに実る

「当社は1960年の創業以来、コンクリート二次製品製造の県内草分けとして、技術革新や新製品の開発に取り組んできました。2代目社長が就任した翌年の1982年には本社をうるま市昆布に移転し、現在



1982年に移転して以来、稼働し続けているうるま市昆布の本社。県内唯一のレジンコンクリートの工場を有している。この日はヒューム管が次々とトラックで運ばれていた



県外から技術者を招いて開発・設置したレジンコンクリート製造装置

は高性能のレジンコンクリートを使った製品をはじめ、宅地や道路用の擁壁・側溝向け製品、また環境に配慮した製品やリサイクル製品の開発・製造を行っています」と小橋川さん。

本社移転を機に、2代目社長の比嘉勉さんが旗振り役となり、職場改革への取り組みをスタートさせた同社。その積み重ねが実を結び、形となって現れたのは、3代目社長の豊里友彦さんが2009年に就任してからだという。その経緯を小橋川さんは次のように語る。

「当社は公共工事の受注が多く、毎年、年度末に業務が集中し、その期間は残業時間が増えていました。残業時間の削減には2代目社長時代から熱心に取り組んできましたが、繁忙期の業務量に従業員の数を合わせると、夏場の閑散期には余剰人員が出てしまうという事態が起きていました。

ここで3代目の豊里社長が「製造ラインのアウトソーシング化」に踏み切りました。技術を有する社員に機械操作や品質管理などを受け持たせ、製造工程は外部化することで、生産性を維持しながら社員数を100人から35人ほどまでに減らすことができました。

社長就任前に工場長として製造現場の事情をつぶさに見てきた豊里だからこそ、実現できた英断だったと思います」

さらに豊里社長のひと声で
一日の労働時間を7時間に短縮

豊里社長は生産性向上だけでなく従業員の待遇改善にもメスを入れ、社長就任翌年の2010年、「従業員のゆとり創造」を目的に連続5日間の連続休暇制度を導入。それまで有給休暇の取得率は5割程度だったが、導入後は全従業員が100%取得するようになった。

さらに2016年には「家族と過ごせる時間を増やし、従業員に心豊かな暮らしを楽しんでもらいたい」と、一日7時間労働制の試験導入を開始。2017年からは正式導入に切り替えた。「午前8時から午後4時までのチームと、午前9時から午後5時までのチームに分けた2シフト制で、一日7時間労働を実現しましたが、これには社員のスキル向上が必要不可欠でした」

それまでは社員一人ひとりが製造工程ひとつを専任で受け持っていたが、交替制で業務を支援なく遂行するには、各人が受け持てる工程の幅を広げる必要があった。

「まずは管理職にシフト制のメリットを説明し、毎日の業務の中で、これまで担当外だった仕事を覚えてもらいました。当初は戸惑いもありましたが、残業時間数は毎年少しずつ減っていき、年間100時間を超えていた残業時間を、今では50時間程度までに減らすことに成功しました」

シフト制の「コミュニケーションロス」は
アプリで解決。さらなる効率化にも挑む

短い労働時間でも業務を円滑に行うための方策は他にもある。「シフト制によるコミュニケーション不足から、トラブルが起きるのを回避するため、無料通話アプリ「LINE(ライン)」を活用しています。部門ごとのグループで、いつでも情報を発信し共有できるようにしました。また、営業部門と製造部門で毎週行う合同会議も、議題をLINEで前もって共有し、各自が事前準備することで会議時間も短縮されました。着席せずに行う「スタンディング会議」も効率アップになりますね。日々のクレーム情報などもLINEで共有していますが、日常業務での改善点も見つけやすくなりました」と小橋川さん。

30年以上にわたって取り組んできた
QC活動の成果も目に見える形で開花

実は同社では、以前からミスの削減や業務の効率化について全員が常に考える下地が築かれているという。その理由を小橋川さんは次のように説明する。

「当社は長年、品質管理に関わるQC活動(左写真参照)を推進しています。県内でもいち早く活動に取り組み、1985年にはQCサークルの社内発表会を行いました。当時はわずか2つのサークルでしたが、



2017年12月、QCサークル活動の全国的普及に努める日本科学技術連盟から「QCサークル活動(小集団改善活動)優良企業・事業所」として表彰された。QCサークル活動は、職場で働く人々が小グループを作って自主的に運営し、継続的に仕事の質の管理や改善を行うもの。1960年代から始まった活動で、現在はQCサークル活動推進のための全国組織が設けられている



海外REPORT

日本と近くなるタイ、そして一番近い沖縄

from タイ

【タイ委託駐在員 伊禮 喬太】

日本人にとってタイは古くから人気の観光地です。旅行で訪れたことがある方も多いのではないのでしょうか。2017年、タイに入国した外国人の数は、3538万1210人で前年比8.8%の増加となりました。これは世界ランキングで10位に入る数字であり、タイが世界有数の観光立国であることがわかります。

同年の日本からの入域旅客数は154万4328人となり、国別5位になりました。逆に、タイ人にとって日本が人気の観光地になったのは近年のこと。2013年7月にタイ人の短期滞在のビザが免除になって以来です。2013年に45万3642人だった訪日タイ人の数は、2017年には98万7211人と4年間で倍以上まで伸びました。これは国別6位となり、日本でもタイ人向けのサービスの需要が伸びています。

その中で2017年、沖縄が脚光を浴びました。2017年2月19日、バンコクと那覇を繋ぐPeach Aviationの直行便が就航したのです。日本とタイを結ぶ航空路線は、経由便を入れれば無数にありますが、直行便が飛んでいる地域は、札幌・東京・名古屋・大阪・福岡の5地域のみでした。ここに沖縄が加わったのです。直行便があるということは、旅行先の候補地として大きなアドバンテージです。これはタイで沖縄の知名度を上げる大きな転機になり、沖縄県が旅行博に継続して出展していたことによるPR効果なども手伝って、2017年の来沖タイ人客数は2万7400人、前年比380%増を記録しました。

以降、タイでの「沖縄」の知名度は上がってきています。私が驚いたのは、タイのファミリーマートの自動ドアに「Okinawa」の文字が見えたときです。「Taste of Okinawa」と銘打ったキャンペーンで、ポスターには「沖縄名産のメニューを味わおう!」と書かれていました。紅芋を入れたカレーや紅芋のホットサンドイッチ、紅芋入りココナツスープという見慣れないメニューから、ロールケーキなどの見覚えあるものまで写真が載っていました。ただし、ポスターの下部には「沖縄のおいしい紅芋をイメージして、作りました」と書かれており、これはタイ産紅芋の商品でした。沖縄産でないことは残念でしたが、タイの一般市民が目にする場所に「Okinawa」の文字があることはとても嬉しかったです。

その後も沖縄の文字は増えていき、スターバックスの「沖縄黒糖ラテ」を皮切りに、ローカルのカフェなどでも見かけるようになってきました。また、「沖縄といえば紅芋」というイメージも出てきているようで、これは沖縄を旅した方のイメージかもしれません。

今後も日本に来るタイ人観光客は伸び続け、日本とタイで多くの方が相互に行き来する日も近いかもしれません。タイからの直行便が飛ぶ一番近い日本である沖縄を、タイ人の旅行先として、また魅力的な物産の産地として、ポジションを確立していけるよう、微力ながらサポートできればと思います。



2018年9月のドリンク店「KAMU」で見かけた「OKINAWA」の文字



2018年8月の国際旅行博TITFに出展した沖縄ブース

【問い合わせ】海外・ビジネス支援課 担当：外間 ☎ 098-859-6238



出荷時に必要な細かい部材は以前は工場内に置かれていたが、見やすい場所に整理して置かれるようになった。部材の欠品や出荷忘れなどのミスも激減したそう



1985年からQC活動を導入。これまでに330件を超えるテーマに熱心に取り組む、職場の改善につなげている

社員旅行の際に全従業員の前で活動内容を発表したんです。すると社内でQC活動の機運が盛り上がり、サークル数も徐々に増え、やがて全社を挙げてさまざまな課題の改善に取り組むようになりました」

10数年前からは、従業員に加えアドバイザーとして管理職もサークル活動に参加。今では全従業員がQC活動に積極的に取り組んでいる。その活動内容は毎年発表会で

共有しているが、50回目を迎えた2016年は記念開催として社外の方を招いた発表会を実施。さらに2017年には全日本選抜QCサークル大会で銀賞受賞という栄誉にも輝いた。

長年にわたるQC活動は、国際標準規格（ISO）の取得という大きな成果もたらしている。一般的には専門のコンサルタントの指導の下で取り組むが、同社はコンサルの力を借りることなくQC活動の延長として、自力でISO9001と、ISO14001を取得しているのだ。

「二年一作」に全員で取り組み次の目標は「健康経営」の実現

同社がもうひとつ大切にしているのが「一年一作」という開発理念である。

「これは2代目の比嘉社長が掲げ、今も続く取り組みです。新しい技術やシステム

を積極的に導入し、地域や環境に貢献できる製品を一年にひとつ、生み出そうという考えです。そこから生まれた代表的な製品が、小動物が抜け出せるように片側の壁に傾斜をつけた側溝「ハイダセル」（はいい出せるという意味のネーミング）で、現在は全国展開する製品に成長しました」

小橋川さんの話から改めて感じるのは、職場の環境改善は一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる労使双方の努力の積



開発理念である「一年一作」は工場内のクレーンにも大きく表示され、その精神は従業員に浸透しているという

を積極的に入し、地域や環境に貢献できる製品を一年にひとつ、生み出そうという考えです。そこから生まれた代表的な製品が、小動物が抜け出せるように片側の壁に傾斜をつけた側溝「ハイダセル」（はいい出せるという意味のネーミング）で、現在は全国展開する製品に成長しました」

小橋川さんの話から改めて感じるのは、職場の環境改善は一朝一夕にできるものではなく、長年にわたる労使双方の努力の積み重ねが重要だ、という真理だ。最後に今後の展開について伺うと、こんな答えが返ってきた。

「さらなる効率化を図り、次は一日6時間労働制の実現を目指します。定年も65歳まで延長（製造現場は67歳まで延長可能）するなど、多彩な人材が長く活躍できる職場にしていきたいですね。また、すべての従業員の健康と安全を第一に考え、従業員の健康管理を経営的な視点で捉えて実践する『健康経営』にも重きを置いていきます。

2017年には沖縄県の『ひやみかち健康経営宣言』に登録しました。今後は健康診



2017年に登録した県の「ひやみかち健康経営宣言」。従業員の健康と安全を第一に、従業員のワークライフバランスを考え、従業員が明るく安心して働ける職場環境で生産性向上に努め、社会貢献を目指すことが宣言された



小橋川健さんは1966年生まれ。トロピカルテクノセンターの研究員だった当時に、共同研究を大和コンクリート工業と行った縁から、2003年に工場次長として入社。2005年に工場長に就任し、2018年3月まで工場管理を中心とした業務に従事。2018年4月より総務・営業担当の役員となる

断受診率を100%にし、人間ドックの費用を会社が負担して従業員の健康を守るようにしていきます」

「働き方改革」という言葉が生まれるはるか前からいち早く改革に取り組み、着実に成果を挙げている同社。県内企業のよき先駆者として、今後ともたゆまず職場改革に邁進する姿を見せてくれそうだ。

大和コンクリート工業株式会社
うるま市字昆布1839-1
☎098-972-3535
http://www.yamato-con.co.jp



新たな発想で
力を引き出す目からウロコの
地域資源活用術

廃棄されたり未活用のままだった地域の素材や事象に価値を見だし、新たな発想で、あるいは新たな技術を用いてこれまでにない新商品・新サービスを生み出した企業の取り組みから、ビジネスのタネを見つける「視点」を探ります。

沖縄初のクラフトジン

「まさひろオキナワジン」

まさひろ酒造株式会社

泡盛の低迷打破のため海外を視野に
世界四大スピリッツの扉を開ける

2017年10月、沖縄初のクラフトジン「まさひろオキナワジン」が誕生した。クラフトジンとは、少量生産で香りや製法にこだわってつくられたジンを指し、2015年頃から世界で注目され始めたカテゴリーだ。ジンは蒸留酒にジュニパーベリー（セイヨウネズの実）をはじめとするポタニカル（植物）で香味成分を加え、再蒸留してつ



「まさひろオキナワジン」700ml入り3000円（希望小売価格・税別）。6種類のポタニカル（植物）をイラストで紹介したラベルで特徴を分かりやすく伝えている。当初の計画では年間2000本出荷の予定だったが、好評につき予定数を2万本に引き上げたそうだ

キーポタニカルはシークワサー。酸味や苦味、渋みを連想しがちだが、開発した鈴木さんらも驚くほどの甘みを引き出すことに成功。女性にも好まれるまろやかな甘みのある味と香りに仕上がった



くられる。そのベースの蒸留酒に、世界で初めて泡盛を用いたクラフトジンが「まさひろオキナワジン」というわけだ。

1883年の創業から長年、泡盛づくりに取り組んできたまさひろ酒造株式会社がジンの開発に着手した経緯を、特販部次長の東政芳さんはこう語る。「泡盛ベースのジンをつくる構想は2016年、京都の『季の美（きのび）』さんがクラフトジンを出した頃に始まりました。泡盛の出荷数が年々低迷する中、世界四大スピリッツ（蒸留酒）のひとつであるジンのカテゴリーに進出し、泡盛を多くの人に知らせる機会をつくりたいと考えたんです」。製造部次長の鈴木一人さんも「泡盛を飲んだことがない人も当社のジンを飲み、ラベルの『AWAMORI』の表示から泡盛に興味を持ってくれるのでは、と思いました」と振り返る。

消費者に手に取ってもらうには国産クラフトジンの最初の十傑（じっけ）に入ることが不可欠と考えた同社は、製造決定からわずか3カ月で商品化・発売にこぎつけた。「沖縄らしい特徴あるジンをつくるため、キーポタニカル（鍵となる植物素材）としたのはシークワサーです。独自の技術でこれまでにない甘く芳醇な香りを引き出すことができ、自分たちでも驚いています。これをゴーヤーやパイパーツで引き締め、バランスの良い味に仕上げました」と鈴木さん。「泡盛を飲み慣れている人も、慣れない人にも、さらにジンを飲んだことがない人にも『おいしい』と言っていたとき、手応えを感じています」。その言葉を裏付けるよ

うに、洋酒を主に扱う全国のバーや酒販店、さらにはジンの本場イギリスをはじめイタリア、ノルウェーといった海外からの問い合わせも増えているそうだ。

鈴木一人さん（右）と東政芳さん。「『まさひろオキナワジン』はトニックウォーターを注ぐだけでライムを搾ったような爽やかな香りが楽しめるのも魅力。ジャパニーズクラフトジンのひとつとして、東京五輪などもきっかけに世界で愛飲してもらいたい。そして、このジンを新たな入り口に、泡盛の消費拡大につなげられたら」と口を揃える



まさひろ酒造株式会社

糸満市西崎町5-8-7

☎ 098-994-8080

<https://www.masahiro.co.jp>

創業170周年を記念して開発

「MIZUHO 170th
SORI-GIN」

瑞穂酒造株式会社

トロピカルでリッチなジンで

沖縄と泡盛を世界に発信していく

首里最古の泡盛の蔵元として知られる瑞穂酒造株式会社は2018年3月、創業170周年を記念してクラフトジンを限定発売した。代表取締役の玉那覇美佐子さんは、開発の経緯を次のように語る。

「当社はこれまでも、泡盛の梅酒やリキュールを開発するなど、常に新しいことにチャレンジし続けてきました。泡盛をベースにしたジンをつくることで、泡盛を知らない人にも手にとっていただけと考えると取り組みを開始しました」

開発を担当した品質管理室主任の仲里

彬さんは「まず世界のジンを深く学ぶことから始めました。そして、沖縄でつくられるジン、瑞穂だからつくめていく段階で、実は相当迷いましたし、悩みました」と当時を振り返る。そんな時に出会ったのが、スペインの「ジンマレ」というジンだった。「これまでにティスティングしたジンと異なり、オイリーでリッチな味わいでした。『これだ』と直感し、そこに沖縄というフィルターを通して、当社の目指すジンの風味は『トロピカル&リッチ』に決まりました」

思い描いた味の実現に向け、原酒選抜にとりかかった仲里さん。ジンに不可欠なジュニパーベリーとの相性もふまえて検討した結果、本部町の桜の花から分離した自社独自のさくら酵母で仕込んだ泡盛を選択。続くポタニカル探しは30種以上の県産素材から厳選し、西表産ピーチパインの表皮、大宜味産の無農薬栽培コリアンダーシード、レモングラスなど10種を選んだ。

ボトルは170周年記念の特別感にふさわしく、華やかなハンドメイドの琉球ガラスを採用。「ライトアップされたバーのカウンターにも映える光の酒」をイメージしました」と玉那覇社長。ボトルの裏に刻印された「ORI-GIN」の文字は、世界的な酒類の専門家であるフィリップ・ダフ氏がその味わいを絶賛して命名してくれたサインを使っているそうだ。

自社販売サイトでは早々に完売となった記念ボトルだが、その開発技術を活かして開発されたブラッシュアップ版が10月19日、21日に開催される「沖縄の産業まつり」



フレッシュなシトラス感とスパイシーな切れ味が特徴の「Fresh」（左）は、ジントニックなどに適した味わい。2018年5月にイギリスで開催された「インターナショナル・ワイン＆スピリッツ・コンペティション（IWSC）2018」では銀賞を受賞した。「Tropical」（中）はピーチパインピールとさくら酵母の泡盛が持つ風味を生かしたリッチでトロピカルな飲み口で、ショートカクテルやロックに適している。いずれも500ml入り8000円（希望小売価格・税込）。ジンらしさとトロピカル感を融合させ、新たな味わいを追求したブラッシュアップ版「ORI-GIN 1848」（右）は500ml入り3780円（希望小売価格・税込）

トロピカルでリッチな風味をもたらしているキーポタニカルは、西表島産の高級ピーチパイン（右下）。香りが豊富なこの果実をフレッシュな状態で仕入れ、表皮のみを自社で加工している



より発売開始される。「古都首里から発信する、唯一無二のオリジナルのジン。そして世界に誇れるオリエンタルなジン」として、新たなファンへの拡大につなげていきたいですね」と玉那覇さんはこやかに意気込みを語ってくれた。

「開発したクラフトジンは、当社がこれまでに蓄積してきた酒づくりの技術の集大成でもあり、新たなスタートでもあるんです」と玉那覇美佐子さん（左）。仲里彬さん（右）は東京農業大学大学院出身で泡盛マイスター、スピリッツアドバイザーなどの資格も有する研究熱心な31歳だ



瑞穂酒造株式会社

那覇市首里末吉町4-5-16

☎ 098-885-0121

<https://www.mizuhoshuzo.co.jp>



自社工場内には鉄工所もあり、以前はここでブロックづくりの命ともいえる型枠の製作を熟練の職人が行っていた。現在は、その職人が退職したため外部の鉄工所の協力を得て製作している。「ブロック製造機械もパーツを鉄工所でつくってもらい、自分たちでモーターなどを組み合わせて自社製作しています」と安里さん



花ブロック各種。コンクリートブロックといえば高さ約20センチ・幅約40センチの長方形が一般的だが、同社の花ブロックは約40センチ四方（写真奥）と約20センチ四方（同手前）の正方形が中心。このスクエアなフォルムとシンプルなデザインが、多くの建築士やインテリアデザイナーなどの創造意欲をかきたてている

沖縄の強い日差しをほどよく遮りつつ、涼しい風を通し、さらに印象的な外観を建物にもたらす「花ブロック」。県内でその製造を手掛ける合資会社山内コンクリートブロックは創業60周年の老舗企業だ。

「花ブロックの始まりは、戦後米軍が持ち込んだスクリーン（目隠し）ブロックと云われています。その後、建築士の仲座久雄氏が『異形ブロック』の名で考案したものが現在、花ブロックとして県内外で親しまれています」。こう説明するのは代表者の安里享

県内外の建物を幾何学模様で彩る
「花ブロック」
— 合資会社山内コンクリートブロック —
県内外で注目を集める沖縄発の建材
「花ブロック」100種以上を製造販売

さん。同社では創業当初、土木工事で使用する擁壁用のブロックと花ブロックを製造していたが、県内のインフラ整備が進んで擁壁の需要が減ったため、2002年頃からは花ブロックを主軸に切り替えた。現在は駐車場などに使われる芝植用ブロックも製造しているが、花ブロックが全体の9割ほどを占めているそうだ。

「現在、4台の機械で1日に720、800個ほどの花ブロックを製造しています。が、受注に納品が追いつかない状況です」と安里さん。自動製造の機械を使った時期もあったが、デザインが100種類以上あり、オートメーションでは対応しにくい。そこで安里さんは、多品種を少量生産しやすい古い機械にあえて切り替えたという。

「自動の機械は修理がしにくく、メンテナンスしづらいという弱点もあったので、思い切って古い機械に戻しました。現在は機械1台に2人の社員が付き、半分自動・半分手動で花ブロックを製造しています」

そのデザイン性と品質の確かさが評判を呼び、現在は納品まで約1ヵ月待ちという嬉しい悲鳴の同社だが、実は苦しい時期もあった。県内需要が落ち込み、会社の引き取り手を探すほどの状況に陥ったのだ。

「1999年前後が最も厳しい状況でした。県外にも活路を見出そうと自社ウェブサイトを立ち上げるなど、試行錯誤していました」。その頃、浦添市美術館の設計などで知られる建築士の内井昭蔵氏が、沖縄市の室川市営住宅を手がける際、統一デザインとして花ブロックを使用することを決定。「この時に内井さんが設計した花ブロックの製造を当社で受注できたのが、危機を脱する大きなきっかけになりました」



上写真は渋谷の商業施設「ヒカリエ」の内装に使われている花ブロック。このほか東京スカイツリーの外装などにも採用されているそうだ。花ブロックは沖縄の気候風土にマッチし、台風やシロアリ対策にも有効。沖縄市立松本保育園では外壁一面と塀に用いられている（下写真）



安里享さん。1971年に入社し、10年ほどコンクリートの試験や施工に関わる業務に就く。その後10年ほど建築士として活躍し、1999年に再入社。厳しい経営状況の中、花ブロックに特化する事業転換を幹部として支え、2004年から代表に就任した

合資会社山内コンクリートブロック
西原町字小那覇1184-1
☎ 098-945-1542
<https://www.yamauchi-cb.jp>



その後は納入実績を徐々に増やし、県内外のマスコミから注目されるように。「すると売上がじわじわ伸び始め、現在に至るまで順調に推移しています」。ありがたい引き合いに助けられた安里さんだが、自社ウェブサイトをいち早く開設して情報発信に乗り出していたこともまた、状況を一変させる大きな要因だったといえそうだ。

今後は若い人材を育てながら、さらに優れたデザインの花ブロックを手掛けていきたいと話す安里さん。「2018年6月に発生した大阪府北部の地震では、ブロック塀の倒壊による痛ましい事故が起きました。ブロックに関わる者として、今後はさらに安全性に配慮した施工を呼びかけながら、花ブロックを活用してもらいたいと思っています」と意気込みを語ってくれた。

卓球プロリーグ「Tリーグ」10月24日開幕! 沖縄を本拠地とするプロ卓球チーム 「琉球アスティード」の活躍に注目しよう



©RYUKYU ASTEEDA



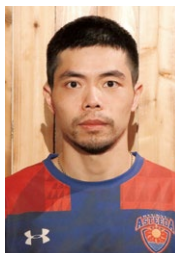
江宏傑選手 ©RYUKYU ASTEEDA

「スポーツアイランド」を目指す沖縄ではさまざまなプロスポーツチームが活躍している。仕事帰りや週末のひとときを、うちなープロスポーツ観戦&応援でアクティブに過ごしてみては？というところで前号から始まった新連載。今回は「卓球」だ。

来る10月24日、国内の卓球新リーグ「Tリーグ」が開幕する。その最高峰となるTプレミアリーグには初年度となる2018-19シーズンは男女各4チームが参戦を決めた。その中のひとつが沖縄に本拠を置くプロチーム「琉球アスティード」だ。

琉球アスティードは「沖縄から世界へ!」をテーマに、沖縄からオリンピックや世界選手権の代表選手を輩出すること、そして県内での卓球の普及・強化・育成を目的に2013年4月、クラブチームとして発足。日本リーグ（実業団リーグ）1部に所属し戦ってきた中、2018年3月にはTリーグ参戦に向けた経営基盤強化のため、運営母体となる「琉球アスティードスポーツクラブ株式会社」（早川周作代表取締役）を設立。Tプレミアを戦い抜くための戦略的な陣容固めを急ピッチで進めてきた。

その結果、獲得した選手の顔ぶれは実に錚々たるもの。まず国内からは2018年10月発表の世界ランキングで11位（日本人第2位）につけているリオデジャネイロオリンピック男子団体銀メダリスト、丹羽孝希選手をはじめ、



荘智淵選手 ©RYUKYU ASTEEDA



丹羽孝希選手 ©RYUKYU ASTEEDA



琉球アスティードオフィシャルサイト
<https://ryukyuaasteeda.jp/>



※注：会場の「宜野湾」は宜野湾市立体育館、「豊見城」は豊見城市民体育館、対戦チーム名の「岡山」は岡山リベッツ、「東京」は木下マイスター東京、「埼玉」は十彩たま。

2012年世界選手権大会で団体銅メダルを獲得した松平賢二選手、2018年日本リーグ前期大会で最高殊勲選手賞（MVP）を受賞した気鋭の若手、23歳の有延大夢選手などが名を連ねる。さらに海外からは、台湾代表で国内トップ2の莊智淵選手・陳建安選手とともに獲得。先行して加入していた江宏傑選手（福原愛さんの夫を含めて3名の台湾出身選手が在籍することになった。Tリーグのホームマッチは12/24宜野湾（vs岡山）、12/25宜野湾（vs東京）、2/11豊見城（vs東京）、2/12豊見城（vs岡山）、2/21宜野湾（vs岡山）、2/22宜野湾（vs埼玉）の予定（※注：チケット情報など詳細はチームウェブサイトで確認を。また、Tリーグ開幕を間近に控えた10/19（金）には沖縄市体育館で日本リーグホームマッチが開催される。試合開始は18時30分、入場は無料だ。この機会に卓球観戦をぜひ体験してみてほしい。



ネットワーク

会員広場

ユニークな商品やサービスを開発するなど、独自の取り組みで「オンライン」を目指す企業をご紹介したり、沖縄県産業振興公社ネットワーク会員企業の最新情報や、講演会・懇親会の企画などを発信します。

沖縄県産業振興公社
沖縄ベンチャースタジオ
検索
http://ovs.jp



株式会社丸忠

債務超過の苦境を「人を生かす経営」で乗り越え
「沖縄をキレイにする」会社として成長を続ける

1970年創業の株式会社丸忠は、衛生用品のレンタル・販売を行うリースキン事業、カーペットなどのクリーニングを行うハウスクエア事業、そして窓ガラスフィルムや床・水回りのコーティング事業で着実に成長を遂げてきた企業だ。2001年に創業社長から経営を受け継ぎ、代表取締役を務める喜納朝勝さんは社長就任当時を振り返り、こう語る。

「当時は債務超過もあり、厳しい経営状況でのスタートでしたが、やるべきことと方向性は見えていました。そして、その実現のために絶対不可欠なのが『人を生かす経営』だと考え、これを経営者としての最優先事項に掲げて、現在に至っています」

経営陣を含む全社員が意識改革研修を受講し、県中小企業家同友会が開催する「共育塾」には第1期から現在の17期まで、ほぼ毎年参加。社内コミュニケーションを円滑にする、共通言語化を図りながら全社一丸となって努力を重ねた結果、2008年に債務超過を解消。その後も順調に業績を伸ばし、現在は年商額も社員数も2001年当時の倍に成長した。



丸忠のフロアコーティング「ミラーコート」。従来のワックスに比べて耐用年数も長く、水・油などの汚れをはじくので日々の掃除が楽。しかもピカピカなのに滑らず、食品衛生法等の基準をクリアした安全成分なので安心して使えると評判だ



自分の人生を豊かにするために会社というステージを使う、という発想で全社員が作成する「人生のグランドデザイン」。年一回の一泊研修で、どんな人生を歩みたいのか、何を成し遂げたいのかをイメージし、書き込んでいく。「働くことは目的ではなく手段なんだよ、いつも社員に話しています」と喜納さん



喜納朝勝さん。社員から「正直な人」「言葉に力がある」と慕われる。毎月実施している社員の誕生日会は主に喜納さんの自宅で開催されるそう



株式会社丸忠

浦添市牧港 5-19-8 ☎ 098-877-6848
https://kireimaru.jimdo.com/



公社ネットワーク会員 プレスリリース

自社運営の「派遣スタッフ向けシェアハウス」を 那覇市内に開設! 離島・県外の方は注目です

総合人材サービスのアクシア沖縄では、沖縄本島での派遣のお仕事を希望される本土や離島の方へのサポートとして、自社運営の「派遣スタッフ向けシェアハウス」を開設しました。通勤や買い物に便利な那覇市内にあり、新築で家具・家電付き、しかも寮費無料! 広々としたリビングではお仕事仲間との交流も楽しめます。移住に伴う住まい探しや引越などの負担を軽くしたい方、少ない荷物ですぐに新生活を始められます! お気軽にお問い合わせください。



株式会社アクシア沖縄

☎ 098-996-2541 (担当: 平良)
http://axo.co.jp/



知的健康サプリ「メモリン」にお求めやすく 携帯しやすいパウチタイプが新登場!

考える力を維持する成分を、科学的根拠に基づいて配合したレキオファーマのサプリメント「メモリン」。秋ウコンの主成分クルクミンをきちんと体内に吸収させる特許製法でつくられています。このたび通販限定で、お求めやすく携帯しやすいパウチタイプが新登場。1袋60粒入り6,000円が、定期購入なら月々4,980円に。さらにキャンペーン中は定期購入初回2,980円です(いずれも税込・送料込)。最近「あれ? うっかり」が増えた方、この機会にぜひお試しください。



レキオファーマ株式会社

☎ 0120-090-121 (ヘルスケアコールセンター)
https://memorin.jp/



名護・宮古島に新営業所を続々オープン! 塗料と防水剤のことならアクタス産業へ

塗料・防水剤などの建築仕上げ材を扱って30余年。アクタス産業は沖縄ならではのニーズにお応えする地域密着型のビジネスを創造し、建築仕上げ材を通して美しい街づくり、省エネで健康な住環境づくりに貢献しています。高まるニーズに応えて2018年8月、名護市宮里に「北部営業所」をオープン。さらに年内には宮古島市平良字久貝に「宮古営業所」をオープン予定です。開設を記念したキャンペーン企画も実施中です。下記URLから詳細をご確認ください。



株式会社アクタス産業

☎ 098-994-8866 (担当: 板橋)
http://www.actus-okinawa.com



(公財) 沖縄県産業振興公社では、さらなる企業支援の拡充・強化を目指し、ネットワーク会員を募集しています。会員特典として会員間の交流、有料セミナー・公社ホームページ・バナー広告・メールマガジンへの掲載料金の割引、ビジネス関連ビデオの貸し出しなど様々な特典メニューをご用意しています。詳しくは <http://okinawa-ric.jp/useful/etc/4380.php> まで。担当: 藤原

地域食品認証・認定の潮流

最近、地方自治体や地方の業界団体が、健康に役立つ食品を認証・認定する制度が増えています。地方独自のコンセプトで健康に良いということについて審査をし、お墨付きを与えるものです。国の制度のような具体的な機能性表示は認められていませんが、国の制度が求める要件とは異なる価値を独自に認めている、こうという積極的な動きが注目されています。

北海道庁は健康に良いことが科学的に研究されている成分を有効な量含んでいる食品を「ヘルシーDO」として認定しています。四国でもこれと似た「ヘルシーフォー」という業界団体による認定制度が4県をまたがって始動しています。

新潟県にある健康ビジネス協議会は、食品成分の変化を抑えた「高圧加工食品」、環境と印刷業者の健康に配慮した「水性印刷商品」、災害時の栄養や利便性に配慮した「おもいやり災害食」などの認定制度があり、さらに新潟市には、地域農産物の高付加価値化を目的として、栄養成分や機能性研究に基づく「健康づくり食品」認定制度があります。

そしてこのたび沖縄県でも、県健康産業協議会が「機能的価値」「情緒的価値」「安全安心」の「三拍子基準」に基づいて食品を認証するWELLNES OKINAWA JAPANというブランド認証制度をスタートさせました。

こうした地方発のブランド認証・認定制度は、大企業が行う大規模なプロモーション戦略とはまた違う形で、地域産業と健康づくりがつながり合う、これまでになかった価値を秘めていますので、新しい潮流として広がっていくであろうと期待しています。

でいきたん照屋の

商
品
開
発

よもやま話



てるや りゅうじ
文・照屋 隆司
www.dikitang.jp

有限会社開発屋でいきたん代表取締役、食品・生物資源産業分野の技術系コンサルタント。農学修士(農芸化学専攻)、技術経営修士(MOT専門職)、NR・サプリメントアドバイザー、産業カウンセラー。(公財)沖縄県産業振興公社登録専門家。

照屋隆司による「食品・化粧品などの開発、技術・表示等に関する無料相談」受付中! ※要予約

《問い合わせ》
沖縄県中小企業支援センター
☎098-859-6237



しっとく
なっとく

企業支援

沖縄県産業振興公社では、県内の企業を支援するため、
さまざまな事業を行っています。
今回は「**沖縄特区・地域税制活用ワンストップ相談窓口**」を紹介します。

沖縄県内で「5年以内に設備投資を行った」・「これから行う計画がある」事業者のみなさん！ 設備投資に係る税の優遇制度を活用できるかもしれません。 お気軽にご相談ください！

沖縄には、設備投資をした際に活用できる「沖縄特区・地域制度」が6制度あるのをご存知ですか？ 産業振興公社内に設けられた「沖縄特区・地域税制活用ワンストップ相談窓口」では、当制度についての無料相談と申請書の作成支援等を実施しており、毎週火・金曜日の午後1時～5時には窓口担当に加えて当制度に詳しい税理士が在席し、直接相談に応じています。

過去5年の間に設備投資をされた事業者の方や、今後の設備投資を検討している事業者の方は、当制度を活用できる可能性があります。「自社が優遇の対象かどうか、確認したい」「設備投資の計画を進める前に、制度を知っておきたい」など、当制度についてどんな疑問にもお答えします。まずはお気軽にお問い合わせください。下記ウェブサイトでも当制度の詳細についてご確認ください。

税理士からのメッセージ

「特区・地域制度」や「税制優遇」といった言葉から「難しそう…」と感じる方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。対象地域・対象業種・取得価額等の要件に合っていれば、どの事業者でも活用できる可能性があります。また、活用できれば他の税制優遇制度よりメリットが大きい制度なので、これを活用して数百万円規模の節税を実現した事業者も出てきています。

「申告・申請手続きが複雑そう…」と心配な方もご安心ください。手続き上でわかりづらい点・不明な点は、ワンストップ相談窓口の担当と配置税理士が丁寧に説明し、申告・申請をお手伝いします。お気軽にご相談ください。



安里和恭税理士

【問い合わせ】 沖縄特区・地域税制活用ワンストップ相談窓口
担当：小林・照屋・上原(明)・上原(千)・普天間（事業支援課）
☎ 098-894-6377 ✉ okitoku@okinawa-ric.or.jp
<https://www.zei-tokku.okinawa/>



3つのポイント

- ☑ 県内事業者・県外事業者を問わず活用できます！
- ☑ 5年以内に購入した資産が対象となる場合があります！※
※但し、産業高度化・事業革新促進地域制度は、除く。
- ☑ 赤字でも優遇制度を活用できる場合があります！

観光地形成促進地域

産業高度化・
事業革新促進地域

情報通信産業振興地域・
特別地区

国際物流拠点
産業集積地域

経済金融活性化
特別地区

離島の旅館業に係る
特例措置



お気軽に
ご相談
ください





『世界ふしぎ発見!』の2018年6月の放送回を撮影するために訪れたアフリカのダナキル砂漠で目撃したラクダのキャラバンと。辛い時や試練に向き合った時に、比嘉さんを支えたのは家族の存在だ。『特に母親とは、どんなことでも(恋愛面は特に)話してきました。両親からの教えが自分を強くしてくれたので、簡単に弱音を吐くことはないです。自分を信じることの大切さを教えてくれた両親の存在に、感謝しています』

比嘉バービィさん タレント・モデル

1985年ペルー生まれの沖縄系三世。5歳から日本に移住し、ルーツである沖縄をたびたび訪れる。モデルとしてデビュー後、現在は日本語とスペイン語、英語が話せるトリリンガルとしてTBS系『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターをはじめ、レポーター業を中心に活躍中。オリオンビールの「サザンスター」のCMには2017年8月から出演し、好評を博している

公式ブログ:
[https://ameblo.jp/
barbyhiga-model/](https://ameblo.jp/barbyhiga-model/)



Instagram:
[https://www.instagram.com/
barby724/](https://www.instagram.com/barby724/)



表紙の 人 INTERVIEW

**沖縄の認知度は世界的にも高いと思う。
ビジネスチャンスを見逃さずに
どんどん挑戦してほしいですね。**

オリオンビールのCMや人気クイズ番組などで、明るく健康的な笑顔をみせてくれる比嘉バービィさん。ペルー生まれで沖縄にもルーツを持つ比嘉さんが、家族で日本に移り住んだのは5歳の時だったそう。初めて沖縄を訪れた時の印象を聞いてみた。

「7歳の時に、沖縄に暮らす母方の祖父の兄弟の家を訪ねたのが最初だと思います。ペルーに住む祖父母と一緒に行ったのですが、親戚一同が集まって…。いま改めて思い出してみると、その頃から沖縄にはペルーと近い空気を感じていたように思います。笑顔が素敵で温かみのある人が多く、マイペース笑。お祭り好きで踊りが好きなところもペルーと似ていますね。」

10代の頃には毎年のように沖縄を訪れていた時期もありました。『私のルーツは沖縄にある』と感じているので、沖縄に行く時はご先祖様に会いに行っている気持ちになるんです」

比嘉さんは、どんな経緯でエンターテインメントの世界にデビューを果たしたのだろう。そのきっかけを伺った。

「踊ることが大好きで、表現者になりたいという気持ちがあつて大学に進学し、その頃にスカウトされて事務所に所属しました。最初はアルバイト感覚でモデルの仕事をしていましたが、就職活動の時に『この道で生きて行こう』と決心して、少しずつ活動の幅を広げていきました」

表現の世界に入るといふ夢をつかみ、モデルからタレントへと領域を広げていた比嘉さん。あるオーディションを受けたことが、その後のキャリアを左右する大きなターニングポイントになったという。

「それは『朝だー生です旅サラダ』というテレビ番組の、『旅サラダガールズ』(リポーター)のオーディションでした。そこでリポーターを1年間経験した後に、『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンターのオーディションに挑戦しました。『旅サラダ』での経験が自信につながり、合格できたのだと思います。ただ、その自信は一瞬にして木っ端微塵に打ち砕かれたのが笑。今、仕事の幅をこまめに広げてこられたのは、このふたつの番組で大切に育てていただいたいるからだと思っています」

「今後の目標やチャレンジしたいことを聞くと、比嘉さんはこう答えてくれた。『目標は常に高く、さらに突き進みたいという気持ちで仕事をしています。今後は海外にも視線を向けて活動し、日本語以外の言語を話す機会を増やしたいです。日本のことを海外に伝える仕事や、これまでチャレンジしてこなかったことにも挑戦し、もっと仕事の幅を広げたいですね』

世界各地を見て来た比嘉さんに、いまの沖縄はどのように映っているのだろうか。『リポーターとして世界をいろいろ回り、特に感じるのは沖縄の海の美しさです!! 沖縄、特に離島の海は群を抜いてキレイだと思います。その美しさを保つためにサンゴを守っている人たちの活動をニュースで知り、沖縄の絶景はそこに住む人々の努力で成り立っているんだなと感じます』

最後に、沖縄でビジネスに取り組み、奮闘する読者にメッセージをもらった。『海外で知られている日本の観光地として名前が挙がるのは、東京・京都・大阪に次いで沖縄が多いと感じています。世界でも沖縄の認知度が高いのは、沖縄がいつもみんなを魅了する場所だからです。また世界のウチナーンチュの絆の固さを見ると、人のパワーもすごいと感じます。そういう意味で沖縄は特別な存在で、海外からも注目されていると思うので、ビジネスチャンスを見逃さずに、どんどん海外に挑戦していってほしいと思います。最後になりましたが、私はそんな沖縄にルーツを持っていることが誇りです。Viva Okinawa!』

OVSnews

**全国47都道府県からサプライヤー出展!
「沖縄大交易会2018」
視察者募集は11月16日まで**

沖縄大交易会は「食をテーマとした国際食品商談会」のうち、商談が成立しやすい「事前マッチング型商談会」としては日本最大の規模を誇るイベントです。沖縄の地理的優位性を活かし、成長著しいアジアを主とした世界へ、沖縄国際物流貨物ハブを活用して、日本全国の特産品等の輸出を促進し、販路を拡大することを目的としています。

来る11月29日(木)・30日(金)の2日間、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催される「沖縄大交易会(以下、大交易会)2018」では、開催史上初となる「全国47都道府県からのサプライヤー出展」が、ついに実現することとなりました。前年度の総商談件数は3297件と過去最多を更新し、成約率も25.1%を記録しましたが、今年度はさらに新たな取り組みとして海外からもサプライヤー出展を予定。商談会としての魅力がさらに高まります。

「海外・県外との取引に興味はあるが、商談会への出展経験がないので不安」「出展してみたいが、その前に一度現場の様子を見ておきたい」という事業者の方は、視察者としての参加をぜひご検討ください。視察者募集は11月16日が締切です。左記URLから詳細をご確認ください。



「沖縄大交易会2017」の開催風景

【問い合わせ】海外・ビジネス支援課
沖縄大交易会実行委員会事務局
担当／宇地原、外間
☎098(851)7463
<http://www.gotf.jp/2018/news/n289.html>



**正社員を新規に雇用する事業者を
サポートする助成金が登場しました!**

産業振興公社ではこのたび「正社員雇用拡大助成金事業」をスタートしました。対象者一人につき30万円(一社当たり最大3名までの助成金が受けられます)。

対象となるのは、県内に雇用保険適用事業所設置届を提出している事業者のうち、「2018年10月1日から12月1日まで」の期間内に、「過去1年以内に正社員として雇用されていない35歳未満の者(卒後3年以内の者を除く)」を、「新たに正社員として雇用した」(事業者)です。

さらに助成要件として、採用後の3か月間で「定着につながる取り組み」を行うための計画書の作成及び実施が求められます。計画書には「定期面談及びフォローアップ、相談体制の構築」「キャリアパスの提示」「その他の定着につながる取り組み」を盛り込み、実際に取り組むことが必要です。社員が「ずっとこの職場で働きたい!」と思えるような職場づくりや、雇用の定着に力を注ぎたい事業者にぜひ活用いただきたい助成金です。詳しくは下記までお気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ】
産業振興課 担当／富川
☎098(859)6239
[http://okinawa-ric.jp/news/
information/11011.php](http://okinawa-ric.jp/news/information/11011.php)



タブロイド判
沖縄ベンチャースタジオ
55号

2018年10月17日発行
発行：(公財)沖縄県産業振興公社
☎098-859-6237
<http://ovs.jp>
編集：光文堂コミュニケーションズ(株)
☎098-889-1131

本紙についてのご意見・ご感想、広告掲載に関するお問い合わせは
ovs@okinawa-ric.or.jp まで
「情報紙について」の件名を入れて送信して下さい。

※非売品につき有償での譲渡および転売を一切禁じます

